

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
317	-	-	94.88	97.00	(地質名欄)アプライト	94.88	97.00	(地質名欄)アプライト	
318	-	-	94.88	95.67	傾斜30°~60°の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	94.88	95.67	94.88~95.67m:傾斜30°~60°の割れ目の一部に幅1~2mmの灰白色粘土やマンガンを伴う。	
319	95.22	95.25	-	-	-	95.22	95.25	95.21~95.25m:割れ目沿いに砂状化、マンガン伴う。	
320	95.30	95.45	-	-	-	95.30	95.45	95.30~95.45m:緑色帯びる。	
321	-	-	95.45	95.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)アランク (変質欄)2ランク	95.45	95.85	(コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)アランク (変質欄)2ランク	
322	-	-	95.85	97.57	(風化欄)アランク (変質欄)2ランク	95.85	97.57	(風化欄)アランク (変質欄)2ランク	
323	95.85	96.58	95.85	96.58	CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。	95.85	96.58	95.85~96.58m:CM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。 傾斜10°~20°とそれと直交する50°の割れ目が見られる。	
324	96.00	96.10	-	-	-	96.00	96.10	96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈も挟む。	
325	-	-	96.71	96.76	傾斜50°程度の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質(硬さD)	96.71	96.76	96.7~96.76m:傾斜50°の割れ目が密集し細片化する。コアは軟質である。	
326	-	-	97.00	140.00	花崗斑岩 全体に珪化し、組織が不明瞭になっている所々、アプライトを挟む	97.00	140.00	97.00~140.00m:花崗斑岩 全体に珪化し、組織が不明瞭になっている。所々、アプライトを挟む。	
327	96.58	97.57	96.58	97.11	CL 傾斜60°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。	96.58	97.11	96.58~97.11m:CL 傾斜60°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。	
328	97.00	97.12	97.00	97.12	割れ目沿いに砂状化し、全体が脆くなる。	-	-	-	
329	-	-	97.11	97.57	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	97.11	97.57	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	
330	-	-	97.57	101.85	アプライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目、下端90°でゆずしている。 101.20~101.80m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。 アプライトとの境界は漸移的である。	97.57	101.85	97.57~101.85m:アプライトを挟む。 花崗斑岩との境界は上端45°の割れ目、下端90°でゆずしている。 101.20~101.80m間は斑晶がやや多く花崗斑岩となる。 アプライトとの境界は漸移的である。	
331	-	-	97.57	101.20	(地質名欄)アプライト	97.57	101.20	(地質名欄)アプライト	
332	97.57	97.88	97.57	97.88	D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状 下端付近の97.85mに40°幅1~5m/m赤褐色鉱物脈が分布	97.57	97.88	97.57~97.88m:D 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状。 下端付近の97.85mに40°幅1~5m/m赤褐色鉱物脈が分布。 全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。	
333	97.57	97.88	97.57	97.88	(岩級区分欄)D	97.57	97.88	(岩級区分欄)CLに含める	
334	97.88	100.51	-	-	-	97.88	100.51	97.88~100.51m:CM 硬さ「C」の岩片も残留するが、全体は締った土砂状。 密度で風化と変質も弱くなる。 密着度が低い割れ目やゆず割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物は殆んど認められない。	
335	-	-	97.88	101.00	割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	97.88	101.00	97.88~101.00m:割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	
336	-	-	97.88	100.51	(割れ目状態欄)Bランク	97.88	100.51	(割れ目状態欄)Bランク	
337	99.03	99.03	-	-	-	99.03	99.03	99.03m:35°割れ目に微細な黄鉄鉱が晶出している。	
338	-	-	99.38	99.38	傾斜12°の割れ目に沿ってマンガン汚染がみられる。	-	-	-	97.88~101.00mの記載に含めため削除した
339	100.00	100.51	-	-	-	100.00	100.51	100.00~100.51m: ゆず割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。	
340	100.51	100.72	100.51	100.72	CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化しマンガン鉱染も受ける。	100.51	100.72	100.51~100.72m:CL 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。	
341	100.51	100.72	100.51	100.72	(岩級区分欄)CM	100.51	100.72	(岩級区分欄)CMに含める	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード	記事		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度			
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 適正化された記事内容			
342	100.72	102.35	CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全割れにφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~糠状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	CM 割れ目には挟雑物は殆んど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全割れにφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~糠状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。	100.72	102.35	100.72	102.35	100.72~102.35m:CM 割れ目には挟雑物はほとんど認められない。一部でゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。 全割れにφ2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目ぞいに片状~糠状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。
343	-	-	-	(地質名欄)花崗斑岩	101.20	101.60	101.20	101.60	(地質名欄)花崗斑岩
344	-	-	-	(地質名欄)アプライト	101.60	101.85	101.60	101.85	(地質名欄)アプライト
345	-	-	-	傾斜力~90°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む	101.61	101.72	101.61	101.72	101.61~101.72m:傾斜70~90°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。
346	102.05	102.35	高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。	-	-	-	102.05~102.35m:高角度で密着度の低い割れ目やゆ着割れ目が多い。	-	-
347	102.05	102.05	102.05~	402.05	402.05	402.05	-	-	-
348	102.35	107.40	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさむが全体では挟雑物は殆んど含まない。 φ2~5m/mの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。	CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンをはさむが全体では挟雑物は殆んど含まない。 φ2~5m/mの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。	102.35	105.00	102.35	105.00	102.35~105.00m:CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目ぞいに薄く砂状化したり粘土脈やマンガンを挟むが全体では挟雑物はほとんど含まない。 径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が点在する。
349	-	-	-	傾斜50°幅1mmの石英脈を伴う	102.65	102.65	102.65	102.65	102.65m:傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。
350	-	-	-	傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している	102.75	102.75	102.75	102.75	102.75m:傾斜50°の割れ目に沿って白濁化している。
351	-	-	-	傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。	103.30	103.30	103.30	103.30	103.30m:傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。
352	103.52	103.54	割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-	-	-	103.52~103.54m:割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-	-
353	-	-	-	傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している	103.98	103.98	103.98	103.98	103.98m:傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。
354	-	-	-	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)εランク	105.00	105.38	105.00	105.38	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)εランク
355	105.23	105.25	65°割れ目は幅1~3m/mの緑色粘土脈を伴う。破砕は伴わない。	-	-	-	105.23~105.25m:65°割れ目は幅1~3m/mの緑色粘土脈を伴う。破砕は伴わない。	-	-
356	-	-	-	傾斜60°、幅1mmの緑灰色粘土を挟む	105.72	105.72	105.72	105.72	105.72m:傾斜60°で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。
357	-	-	-	所々、長石の緑泥石化が見られる	106.30	106.50	106.30	106.50	106.30~106.50m:所々、長石の緑泥石化が見られる。
358	106.33	106.33	60°割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴わない。	-	-	-	106.33m:60°割れ目ぞい幅5m/mが細片化する。粘土は伴わない。	-	-
359	-	-	-	(コアの形状欄)IVランク	106.33	106.70	106.33	106.70	(コアの形状欄)IVランク
360	107.40	107.83	CM	-	-	-	107.40~107.83m:CM	-	-
361	107.52	107.55	各々40°、53°割れ目に囲まれ細片化~砂状化する。粘土は伴わない。	-	-	-	107.52~107.55m:各々40°、53°割れ目に囲まれ細片化~砂状化する。粘土は伴わない。	-	-
362	107.83	108.24	CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。	-	-	-	107.83~108.24m:CL 風化で割れ目ぞいに軟化が進む。	-	-
363	107.83	108.24	(岩級区分欄)CL	107.83	108.24	107.83	108.24	(岩級区分欄)CLに含む	-
364	108.20	108.20	50°割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。	-	-	-	108.20m:50°割れ目と周辺の割れ目はマンガン鉱染を受ける。	-	-
365	108.24	109.98	CM 硬質であるがゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟雑物は殆んど分布しない。 109.00~109.14mと109.41~109.80m間は割れ目が密集し、長さ10~30m主体の硬質岩片化している。	-	-	-	108.24~109.98m:CM 硬質であるが、ゆ着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟雑物はほとんど分布しない。 109.00~109.14mと109.41~109.80m間は割れ目が密集し、長さ10~30m主体の硬質岩片化している。	-	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事				
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容				
366	-	-	108.64	108.76	アプライト脈を挟む。上端・下端とも50°程度で境界は明瞭、ゆずっている。	108.64	108.76	108.64~108.76m:アプライト脈を挟む。上端・下端とも50°程度で境界は明瞭でゆずっている。	-			
367	-	-	108.64	108.76	(地質名欄)アプライト	108.64	108.76	(地質名欄)アプライト	-			
368	109.98	110.43	-	-	-	109.98	110.43	109.98~110.43m:CH ゆずり割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアからなる。	-			
369	109.98	110.43	109.98	110.43	(岩粒区分欄)CH	109.98	110.43	(岩粒区分欄)CHに含める	-			
370	110.43	110.74	110.43	112.04	CL 岩片は硬いが、割れ目の一部で砂状化する。	110.43	112.04	110.43~112.04m:CM 堅硬で割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	-			
371	-	-	110.43	110.74	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)bランク	110.43	110.74	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)bランク	-			
372	-	-	110.72	111.54	アプライト脈 上端15°で機械割れ。下端は45°で湾曲。境界は明瞭で一部ゆずっている。	110.72	111.54	110.72~111.54m:アプライト脈を挟む。上端15°で機械割れ。下端45°で湾曲し、境界は明瞭で一部ゆずっている。	-			
373	-	-	110.72	111.54	(地質名欄)アプライト	110.72	111.54	(地質名欄)アプライト	-			
374	110.74	112.83	112.04	112.83	CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化するが劣化は伴わない 112.04m以浅は堅硬で割れ目挟在物は殆んど分布しない 111.13~111.37mは暗緑色化、111.37~111.54mはにぶい褐色を割れ目方向と調和的に50~60°で示す。 前者は緑泥石化が進んだ区間、後者はカリ長石が多く露出する区間である。両者の境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04m以深は硬さC主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。 高角度割れ目が発達している。	112.04	112.83	CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体 割れ目交差部の一部では岩状化する 111.13~111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。 111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるベグマタイト。破砕や変質は伴わない。 112.04m以深は硬さC主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。	112.04	112.83	112.04~112.83m:CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。 割れ目交差部の一部では岩状化する。 111.13~111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。 111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるベグマタイト。 両者の境界部はよく密着し、破砕や変質は伴わない。 112.04m以深は硬さC主体で、一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。粘土化や粘土脈は分布しない。全体にマンガン鉱染を軽微に受け、割れ目の面ぞいは薄く黒褐色化する。高角度割れ目が発達している。	-
375	112.83	113.51	-	-	-	112.83	113.51	112.83~113.51m:CL 割れ目ぞいに砂状化が進むことが多い。	-			
376	113.03	113.31	-	-	-	113.03	113.31	113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。	-			
377	113.10	113.13	113.10	113.13	コアチューブ引上げ時に乱され、棒状コア化している。 全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う	113.10	113.13	113.10~113.13m: コアチューブ引上げ時に乱され、棒状コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。	-			



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名:H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	
378	113.51	113.60	破砕帯(主せん断面113.56m)	113.51	113.60	破砕帯(主せん断面113.56m) 最新活動面は113.56mか113.60m可能性がある	113.51	113.60	●113.51~113.60m:破砕部 113.51~113.56m:粘土混じり岩片状部(H) 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。径5~10mm硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅20~35mm。 113.56m:粘土状部(Hc-1) 上端66°で、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分離する。軟質で、径1mmを英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m:粘土混じり岩片状部(H) 上端66°で小さく波打ち。下端63°、幅1mm以下のにふい橙色の直線的な軟弱粘土層と連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ1~2mm/m。 このうち、113.58~113.60mは礫質砂状を呈し、やや硬質で、含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	種軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
379	113.51	113.56	H 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。φ5~10m/m硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ20~35m/m	113.51	113.56	H 上端55°で、下端66°でいずれも波打って連続。φ5~10m/m硬さDの岩片で、岩片間は薄く粘土化~砂状化する。「粘土混じり岩片状」を呈する。硬質、含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ20~35m/m	113.51	113.60	113.56m:粘土状部(Hc-1) 上端66°で、下端66°でいずれも小さく波打って連続。途中で幅1mmの粘土に分離する。軟質で、径1mmを英粒わずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m:粘土混じり岩片状部(H) 上端66°で小さく波打ち。下端63°、幅1mm以下のにふい橙色の直線的な軟弱粘土層と連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ1~2mm/m。 このうち、113.58~113.60mは礫質砂状を呈し、やや硬質で、含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	
380	113.56	113.56	Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分離。 φ1m/m石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ1~2m/m。	113.56	113.56	Hc-1 66°で上下端とも小さく波打って連続。途中で厚さ1m/m粘土に分離。 φ1m/m石英粒わずかに含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ1~2m/m。 直線性に乏しい。	113.51	113.60		
381	113.56	113.60	H 上端66°で小さく波打ち。下端63°、幅1m/m以下のにふい橙褐色(7.5YR7/4)の直線的な軟弱粘土層として連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ5~20m/m。	113.56	113.60	H 上端66°で小さく波打ち。下端63°、幅1m/m以下のにふい橙褐色(7.5YR7/4)の直線的な軟弱粘土層として連続。φ5~10m/m岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は灰褐色(7.5YR6/2)厚さ15~20m/m。やや硬質。細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。 このうち113.58~113.60mは礫質砂状を呈し、やや硬質で、含まれる細粒部の連続性・直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	113.51	114.00	(岩級区分欄)CLに含める	-
382	113.51	114.00	(岩級区分欄)D	113.51	114.00	(岩級区分欄)CL	113.51	114.00	(岩級区分欄)CLに含める	-
383	113.60	114.00	D 硬さ「D」岩片含むが全体として軟化著しい。	113.60	113.70	D、径1~20mmの垂角礫を30%程度含む暗褐色砂状部。下端境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。	113.60	113.70	113.40~113.70m:D 径2~20mmの垂角礫を30%程度含む暗褐色砂状部。下端境界は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。	-
384	-	-	-	113.70	114.00	傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。	113.70	114.00	113.70~114.00m:傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂礫状を呈する。	-
385	-	-	-	113.70	113.85	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク	113.70	113.85	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク	-
386	-	-	-	113.85	114.00	(割れ目状態欄)cランク	113.85	114.00	(割れ目状態欄)cランク	-
387	114.00	114.75	CL 高角と低角割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける	114.00	114.75	CL 高角80°と低角20°の割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける 一部は掘削時に岩片化したものを含む	114.00	114.75	114.00~114.75m:CL 高角80°と低角20°の割れ目が交差し概ね30m/m以下に岩片化。 割れ目の一部は砂状化~マンガン鉱染を受ける。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。	-
388	114.75	115.52	D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。	114.75	115.52	D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	114.75	115.52	114.75~115.52m:D 風化著しく大半が砂状化し、砂礫状を呈する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。	-
389	115.28	115.28	以深では割れ目の一部が残留している。	-	-	-	115.28	115.28	115.28m以深では割れ目の一部が残留している。	-
390	115.52	118.26	CL 60~70°の高角割れ目と30°前後の低角割れ目が交差する。 割れ目ぞいの多くは砂状化するが粘土は分布しない。	115.52	118.63	CL 60~70°の高角割れ目と30°前後の低角割れ目が交差する。 割れ目ぞいの多くは砂状化するが粘土は分布しない。 一部は掘削時に岩片化したものを含む	115.52	118.63	115.52~118.63m:CL 60~70°の高角割れ目と30°前後の低角割れ目が交差する。 割れ目ぞいの多くは砂状化する。 一部は掘削時に岩片化したものを含む。	-
391	116.87	118.26	割れ目ぞいに砂状化が進んでいる。 岩片はφ10~30m/m硬さ「C」主体。	117.00	118.26	割れ目ぞいに砂状化が進んでいる。 岩片はφ10~30m/m硬さ「C」主体。 割れ目はφ10~70°とこれには5mm交差する40°前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細粒化するものもある。 所々、幅1~3mm程度の灰白色粘土を伴う。 117.25m、117.82mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず、割れ目周辺の原岩組織は明瞭に認められる。	117.00	118.26	117.00~118.26m: 割れ目ぞいに砂状化が進んでいる。 岩片はφ10~30mm硬さ「C」主体。 割れ目はφ10~70°とこれには5mm交差する40°前後が多く、交差部ではφ5mm前後に細粒化するものもある。 所々、幅1~3mm程度の灰白色粘土を伴う。 117.25m、117.82mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず、割れ目周辺の原岩組織は明瞭に認められる。	-



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	記事	記事	記事	記事		
上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度		
	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? 		記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? 		記事 選定した記事内容	
392	116.87 117.00 φ10m/m前後の礫状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。割れ目は60°~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細片化するものもある。60°~70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。	116.87 117.00	φ10m/m前後の礫状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。割れ目は60°~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部ではφ5m/m前後に細片化するものもある。60°~70°割れ目は40°割れ目を切っている部分がある。	116.87 117.00	116.87~117.00m: 径10mm前後の礫状コア。これは掘削時に割れ目ぞいの砂状部分が流失したためと推定される。	
393	- -	116.87 117.00	(コアの硬さ欄)Cランク	116.87 117.00	(コアの硬さ欄)Cランク	
394	118.10 118.63 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。118.20m以深では上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。一部で厚1~2mm/mの白色粘土脈をはさむ	118.10 118.63	118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。118.20m~118.63mでは上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。一部で厚1~2mm/mの白色粘土脈を網目状にはさむ	118.10 118.63	118.10~118.26m: 割れ目の一部は軽微なマンガン鉱染を受ける。118.20~118.63m: 上位よりも更に割れ目ぞいの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土脈を網目状に含む。	
395	118.63 118.94 D 砂状化が著しくなく、締った砂礫状を呈するものが主だが硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留	- -	-	118.63 118.94	118.63~118.94m: D 砂状化が著しくなく、締った砂礫状を呈するものが主だが、硬さ「C」岩片のみからなる部分も残留。	
396	118.94 119.12 破砕帯(主せん断面119.10m)	118.94 119.12	破砕帯(主せん断面119.10m) 最新活動面は119.10mか119.12mの可能性ある	118.94 119.12	●118.94~119.12m: 破砕帯 118.94~119.10m: 砂混じり岩片状部(H) 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)、厚さ160mm/m(コア長)。 ●119.10~119.12m: 礫混じり粘土状部(Hc-2) 上端60°で直線的に、下端60°で波打って連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む軟弱な礫混じり粘土からなる(分みじみ)色調は淡黄(8Y8/3)、厚さ13~15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端~上端へ斜交する幅2mmの軟弱な褐色粘土脈が分布 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	硬軟: 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や組織部の連続性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
397	118.94 119.10 H 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)、厚さ160mm/m(コア長)。	118.94 119.10	H 上端32°、下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化した「砂混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR5/4)、厚さ160mm/m(コア長)。 ●硬質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。含まれる細粒部は局所的に分布	118.94 119.12		
398	119.10 119.12 Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1~2mm/m石英粒、φ3~10mm/m粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む軟弱な礫混じり粘土からなる(分みじみ)色調は淡黄(8Y8/3)、厚さ13~15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端~上端へ斜交する幅2mmの軟弱な褐色粘土脈が分布。	119.10 119.12	Hc-2 60°で上端直線的に、下端は波打って連続。φ1~2mm/m石英粒、φ3~10mm/m粘土化~硬さ「D」岩片を10~20%含む軟弱な礫混じり粘土からなる(分みじみ)色調は淡黄(8Y8/3)、厚さ13~15m/m 粘土中には、表面がマンガン化したφ1m/mの石英粒が多い。また下端~上端へ斜交する幅2mmの軟弱な褐色粘土脈が分布 ●原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない。	119.10 119.12		
399	119.12 119.30 CL 60°~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが挟雑物は殆んど分布しない	119.12 119.30	CL 60°~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが挟雑物は殆んど分布しない 一部は掘削時に岩片化したものを含む	119.12 119.30	119.12~119.30m: CL 60°~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが、挟雑物はほとんど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	
400	119.12 119.30 (岩級区分欄)CL	119.12 119.30	(岩級区分欄)D	119.12 119.30	(岩級区分欄)Dに含める	
401	119.30 120.78 CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	119.30 120.78	CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30°~60°程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10°~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する	119.30 120.78	119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30°~60°程度の割れ目が1~5cm程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10°~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。	
402	120.78 122.00 CH 130~140m間でゆる割れ目が約10m/m間隔で分布。	120.78 122.00	CH 130~140m間でゆる割れ目が約10m/m間隔で分布。	120.78 122.00	120.78~122.00m: CH	
403	- -	121.09 121.16	アプライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆるしている。	121.09 121.16	121.09~121.16m: アプライト脈を挟む。上端20°、下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面はゆるしている。	
404	122.00 125.06 CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	- -	-	122.00 125.06	122.00~125.06m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。	
405	- -	122.36 122.36	傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	122.36 122.36	122.36m: 傾斜52°、幅5~10mm程度で暗緑色を呈する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? 			追加変更した情報が正しく転記されているか? 				
406	123.38	123.38	割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部はさままない。	-	-	-	123.38	123.38	123.38m:割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土化部はさままない。
407	124.54	124.54	55° 割れ目面に厚さ0.5mm/m、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。	-	-	-	124.54	124.54	124.54m:55° 割れ目面に厚さ0.5mm、軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。
408	125.06	125.28	CL 仰着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土はさままない。	-	-	-	125.06	125.28	125.06~125.28m:CL 仰着割れ目などから分離・細片化している。砂や粘土はさままない。
409	125.06	125.28	(岩級区分欄)CL	125.06	125.28	(岩級区分欄)CM	125.06	125.28	(岩級区分欄)CMに含める
410	125.28	127.68	CM 開口割れ目と平行方向の仰着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、赤風化。	-	-	-	125.28	127.68	125.28~127.68m:CM 開口割れ目と平行方向の仰着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分離・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、赤風化。
411	127.16	127.25	φ10mm前後で角礫状化している。下端の45° 割れ目面には幅10mm/mがφ2~5mm/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。	-	-	-	127.16	127.25	127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下端の45° 割れ目面には幅10mm/mが径2~5mm/mで細礫状化し、風化で淡褐色化する。
412	127.68	128.08	CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で挟雑物は下端部の123.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさままない。	127.68	128.08	CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で挟雑物は下端部の128.05~128.08mがφ3~5m/m硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさままない。一部に掘削時に岩片化している。	127.68	128.08	127.68~128.08m:CL 厚さ5~10m/m程度の片状コア主体で、挟雑物は下端部の128.05~128.08mが径3~5mm硬質岩片を含む「硬質砂」状を呈する以外、砂、粘土などはさままない。一部は掘削時に岩片化している。
413	127.68	128.08	(岩級区分欄)CL	127.68	128.08	(岩級区分欄)CM	127.68	128.08	(岩級区分欄)CMに含める
414	128.08	128.64	CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟雑物は認められない。	-	-	-	128.08	128.64	128.08~128.64m:CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟雑物は認められない。
415	128.64	128.88	CL φ10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。	-	-	-	128.64	128.88	128.64~128.88m:CL φ10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目ぞいに風化が進行していると推定される。
416	128.64	128.88	(岩級区分欄)CL	128.64	128.88	(岩級区分欄)CM	128.64	128.88	(岩級区分欄)CMに含める
417	128.88	129.91	CM 60~70° の高角度と30~40° の低角度割れ目の交差部ではφ10mm前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部はさままない。	128.88	129.91	CM 60~70° の高角度と30~40° の中角度割れ目の交差部ではφ10mm前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部はさままない。	128.88	129.91	128.88~129.91m:CM 60~70° の高角度と30~40° の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状するが、砂状部や粘土化部はさままない。
418	129.91	131.93	OH 一部のコアには仰着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。	-	-	-	129.91	131.93	129.91~131.93m:OH 一部のコアには仰着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分離・細片化しないものが多い。
419	-	-	-	130.00	140.00	130.00~140.00m:仰着割れ目が約10mm間隔で分布。	130.00	140.00	130.00~140.00m:仰着割れ目が約10mm間隔で分布。
420	131.40	131.52	φ20~30mmの角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。	-	-	-	131.40	131.52	131.40~131.52m:径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。
421	131.93	138.07	CM 仰着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部をはさむことがあるが、挟雑物が少ない(b)割れ目が主体。	131.93	138.07	CM 仰着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部をはさむことがあるが、挟雑物が少ない(b)割れ目が主体。	131.93	138.07	131.93~138.07m:CM 仰着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部をはさむことがあるが、挟雑物が少ない(b)割れ目が主体。
422	132.07	132.24	φ10~20mm/m角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は透気である。	-	-	-	132.07	132.24	132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ目面に砂が付着するものが多い。微細な黄鉄鉱も伴う。同区間は透気である。
423	-	-	-	132.18	132.33	アプライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明瞭な境界をもち、面は仰着している。	132.18	132.33	132.18~132.33m:アプライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明瞭な境界をもち、面は仰着している。
424	-	-	-	133.20	133.25	アプライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は仰着している。	133.20	133.25	133.20~133.25m:アプライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は仰着している。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-1)

孔名: H27-B-1

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
425	133.40	134.00	-	-	-	133.40	134.00	133.40~134.00m: 砂着しに密着割れ目沿いに開口を七し、径10mm前後に細かく砕けている。	-
426	133.82	133.82	-	-	-	133.82	133.82	133.82m: 60° 割れ目ぞい幅20mm/mがφ3~5mmの薄片状化しているが、風化に起因する砂や粘土はほとんど見えない。	-
427	-	-	134.78	134.78	傾斜35°、幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。	134.78	134.78	134.78m: 傾斜35° で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。	-
428	-	-	134.87	134.91	傾斜35°、幅25mm程度で緑色化している。	134.87	134.91	134.87~134.91m: 傾斜56°、幅25mm程度で緑色化している。	-
429	-	-	135.41	135.41	傾斜20° 及び135.45m付近の2条の傾斜55° 程度の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	135.41	135.45	135.41m: 傾斜20° の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近: 傾斜55° の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。	-
430	135.80	136.00	-	-	-	135.80	136.00	135.80~136.00m: 砂着割れ目沿いに開口し、長さ16~30mm程度に薄片化している。	-
431	137.00	138.07	-	-	-	137.00	138.07	137.00~138.07m: 砂着割れ目が多いが密度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。φ2~3m/暗緑灰色の緑泥石が斑点状に点在する。	-
432	138.07	138.44	138.07	138.44	CM 密度度の低い砂着割れ目を多く含む、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。 φ2~3m/暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	138.07	138.44	CM 密度度の低い潜在割れ目を多く含む、全体として硬さ「C」である。 長石の白濁化や割れ目挟在物はほとんど認められない。 径2~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多い。	-
433	138.44	138.80	-	-	-	138.44	138.80	138.44~138.80m: CH 堅硬、塊状、砂着割れ目が多いが密度が高くハンマー強打でも分離しない。	-
434	138.44	138.80	138.44	138.80	(岩級区分欄)CM	138.44	138.80	(岩級区分欄)CMに含める	-
435	138.80	139.82	-	-	-	138.80	139.82	138.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。 全体に割れ目挟在物はほとんど含まない。	-
436	138.93	138.93	-	-	-	138.93	138.93	138.93m: 60~70° 厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着一部割れ目化して連続。	-
437	138.95	139.08	-	-	-	138.95	139.08	138.95~139.08m: 30~40° と70° 割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は伴わない。	-
438	139.18	139.18	-	-	-	139.18	139.18	139.18m: 以深は上位より風化と変質が進む。	-
439	139.31	139.31	-	-	-	139.31	139.31	139.31m: 72° 割れ目沿い厚さ2~3mmマンガン鉱染を受ける。	-
440	139.82	139.88	139.82	139.88	(岩級区分欄)D	139.82	139.88	(岩級区分欄)Dに含める	-
441	139.82	139.88	139.82	139.88	破砕帯(最新活動面139.82m) 直線的な細粒部	139.82	139.88	●139.82~139.88m: 破砕部 139.82m: 粘土状部(Hc-1) 52° で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。暗緑灰色~灰褐色を呈する。幅0.5~1mm。 139.82~139.88m: 砂泥じり岩片状部(Hj) 52°、下層52° でいずれも直線的に連続。φ3~5mmに細かく岩片化。岩片間には砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に「砂泥じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m	-
442	139.82	139.82	139.82	139.82	Hc-1 52° で直線的に連続。肉眼的には石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(カウジ)。色調は暗緑灰色(5G3/1)~灰褐色(7.5YR4/1)、厚さ0.5~1m/m	139.82	139.82	Hj 52° で上下端とも直線的に連続。φ3~5mmに細かく岩片化。岩片間には砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に「砂泥じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)。厚さ40m/m 硬質、マンガン汚染して原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭。細粒部は伴わない。	-
443	139.82	139.88	139.82	139.88	Hj 52° で上下端とも直線的に連続。φ3~5mmに細かく岩片化。岩片間には砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に「砂泥じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)、厚さ40m/m	139.82	139.88	Hj 52° で上下端とも直線的に連続。φ3~5mmに細かく岩片化。岩片間には砂状化(粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。全体に「砂泥じり岩片状」を呈する。色調は暗緑灰色(10G3/1)、厚さ40m/m 硬質、マンガン汚染して原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明瞭。細粒部は伴わない。	-
444	139.88	139.95	139.88	139.95	D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。	139.88	139.95	139.88~139.95m: D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガン汚染著しい。	-
445	139.95	140.03	-	-	-	139.95	140.03	139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。	- - 余剰分の記載は削除し、下端深度を変更した

余白

H27-B-2

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
1	-	-	0.00	0.70	試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。	0.00	0.70	0.00~0.70m: 試掘でコンクリートが分布することを確認している。コア採取は実施しなかった。	-	
2	0.00	0.70	(地質名欄)コンクリート	0.00	0.70	(地質名欄)コア欠如	0.00	0.70	(地質名欄)コア欠如	-
3	-	-	-	0.70	12.33	盛土	0.70	12.33	0.70~12.33m: 盛土	-
4	-	-	-	0.70	1.00	グリ石	0.70	1.00	0.70~1.00m: グリ石	-
5	0.70	1.00	(地質名欄)砂利 (色調欄)空欄	0.70	1.00	(地質名欄)盛土 (色調欄)N21 黒	0.70	1.00	(地質名欄)盛土 (色調欄)黒	-
6	1.00	2.00	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い	1.00	2.00	径0.25~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い。ルーズ。			1.00~4.10m: 径0.25~2mmの中粒砂~極粗粒砂主体。淘汰は概ね良好である。ルーズで、径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。	盛土区間のうち、同様な地質区間をまとめて書きした
7	2.00	3.40	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通 10~50mmの礫を複数含む	2.00	3.40	径0.25~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は普通。ルーズ。 径10~50mmの花崗岩類、黒色砂岩の角礫を多く含む	1.00	4.10		
8	3.40	4.00	径0.05~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い	3.40	4.10	径0.25~2.0mmの中粒砂~極粗粒砂主体の盛土 淘汰は良い。ルーズ				
9	-	-	-	4.10	5.83	スライム			4.10~5.83m: スライム 礫混じりシルト質粗粒砂、灰黄褐色を呈する砂混じり腐植質シルト、砂混じりシルト、黒褐色を呈する腐植質シルトからなる。所々、径7cm以下の花崗岩類、黒色砂岩の角礫を含む。全体にルーズである。	スライム区間の地質名を列記してまとめて書きした
10	-	-	-	4.10	4.28	径2~10mmの花崗岩類、石英、長石、黒色砂岩の角礫、植物片を含む。シルト質粗粒砂からなる。ルーズ。	4.10	5.83		
11	4.10	5.83	(地質名欄)盛土	4.10	5.83	(地質名欄)コア欠如	4.10	5.83	(地質名欄)コア欠如	-
12	-	-	-	4.28	4.42	砂混じり腐植質シルトからなる。軟質 灰黄褐色(10YR5/2)を呈する。	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
13	-	-	-	4.42	5.80	砂混じりシルトからなる。軟質	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
14	-	-	-	4.84	4.84	径7cmの花崗斑岩の角礫あり。	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
15	-	-	-	4.98	4.98	径5cmの花崗斑岩の角礫あり。	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
16	-	-	-	5.80	5.83	腐植質シルトからなる。黒褐色(2.5Y3/1)を呈する。軟質。	-	-	-	上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
17	-	-	-	5.83	7.00	砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質粗粒砂からなる。	5.83	7.00	5.83~7.00m: 砂混じりシルト質粗粒砂主体で、6.80~7.00mは礫質粗粒砂からなる。	-
18	5.83	6.25	色調欄)10YR6/4 にふい黄橙	5.83	6.25	(色調欄)2.5Y6/3 にふい黄	5.83	6.25	(色調欄)にふい黄	-
19	6.25	6.64	色調欄)10YR6/4 にふい黄橙	6.25	6.64	(色調欄)7.5Y6/1 灰	6.25	6.64	(色調欄)灰	-
20	-	-	-	7.00	7.12	合板	7.00	7.12	7.00~7.12m: 合板が分布する。	-
21	7.00	7.41	色調欄)7.5YR5/4にふい褐	7.00	7.41	色調欄)10YR7/2にふい黄橙	7.00	7.41	(色調欄)にふい黄橙	-
22	-	-	-	7.12	7.17	径8cmの花崗斑岩の角礫	7.12	7.17	7.12~7.17m: 径8cmの花崗斑岩の角礫を含む。	-
23	-	-	-	7.17	7.41	スライム 砂混じりシルトからなる。軟質。	7.17	7.41	7.17~7.41m: スライム 砂混じりシルトからなる。軟質。	-
24	7.17	12.33	(地質名欄)盛土	7.17	12.33	(地質名欄)コア欠如	7.17	12.33	(地質名欄)コア欠如	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名：H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
25	-	-	-	7.41	8.53	スライム 径10cm以下の花崗岩類の垂角～角礫からなる。コアの形状をなしていない。基質部は流出している。	7.41	8.53	7.41～8.53m:スライム 径10cm以下の花崗岩類の垂角～角礫からなる。コアの形状をなしていない。基質部は流出している。	
26	-	-	-	8.11	8.20	スライム シルト質礫からなる。ルーズ	8.11	8.20	8.11～8.20m:スライム ルーズなシルト質礫からなる。	
27	8.50	8.53	(色調欄)7.5YR6/1褐褐	8.50	8.53	(色調欄)7.5YR6/4にぶい橙	8.50	8.53	(色調欄)にぶい橙	
28	-	-	-	8.53	9.22	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質	8.53	9.70	8.53～9.70m:スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。下部は植物片が混じる。	・スライム区間のうち、同様な地質の区間をまとめて書きした
29	9.00	9.22	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	9.00	9.22	(色調欄)7.5YR6/1灰褐	9.00	9.22	(色調欄)灰褐	
30	-	-	-	9.22	9.70	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。植物片混じる。	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
31	-	-	-	9.70	9.80	スライム 径8cmの花崗斑岩の礫。	9.70	9.80	9.70～9.80m:スライム 径8cmの花崗斑岩の礫からなる。	
32	9.70	10.26	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	9.70	10.26	(色調欄)7.5YR5/1褐灰	9.70	10.26	(色調欄)褐灰	
33	-	-	-	9.80	10.26	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。	9.80	10.42	9.80～10.42m:スライム 砂・礫混じりシルト～礫混じり砂からなる。軟質。植物片混じる。礫は径3cm以下の花崗岩類の角礫からなる。	・スライム区間のうち、同様な地質の区間をまとめて書きした
34	-	-	-	10.26	10.42	スライム 礫混じり砂からなる。	-	-	-	・上記でスライム区間の記載をまとめて書きしたため記載しない
35	10.26	10.42	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	10.26	10.42	(色調欄)10YR7/1灰白	10.26	10.42	(色調欄)灰白	
36	-	-	-	10.42	10.70	スライム 砂・礫混じりシルト～粘土からなる。軟質。泥剤がコア表面に付着している。	10.42	10.70	10.42～10.70m:スライム 砂・礫混じりシルト～粘土からなる。軟質。泥剤がコア表面に付着している。	
37	10.42	10.50	(色調欄)7.5YR4/1褐灰	10.42	10.50	(色調欄)10YR7/6明黄褐	10.42	10.50	(色調欄)明黄褐	
38	-	-	-	10.70	11.00	スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質	10.70	11.00	10.70～11.00m:スライム 砂・礫混じりシルトからなる。軟質。	
39	10.70	11.00	(色調欄)10YR7/6明黄褐	10.70	11.00	(色調欄)10YR6/1 褐灰	10.70	11.00	(色調欄)褐灰	
40	-	-	-	11.00	11.30	スライム 径8cm以下の花崗岩類の礫。基質部は流出している。	11.00	11.30	11.00～11.30m:スライム 径8cm以下の花崗岩類の礫。基質部は流出している。	
41	11.00	11.30	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.00	11.30	(色調欄)7.5YR7/3 にぶい橙	11.00	11.30	(色調欄)にぶい橙	
42	-	-	-	11.30	11.58	スライム 腐植混じりシルト質砂からなる。ルーズ	11.30	11.58	11.30～11.58m:スライム 腐植混じりシルト質砂からなる。ルーズである。	
43	11.30	11.50	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.30	11.50	(色調欄)7.5YR5/1 褐灰	11.30	11.50	(色調欄)褐灰	
44	11.50	11.58	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.50	11.58	(色調欄)7.5YR5/1 褐灰	11.50	11.58	(色調欄)褐灰	
45	-	-	-	11.58	12.00	スライム 礫混じり粗粒砂からなる。ルーズで、径2cm以下の花崗岩類の角礫を含む。	11.58	12.00	11.58～12.00m:スライム 礫混じり粗粒砂からなる。ルーズで、径2cm以下の花崗岩類の角礫を含む。	
46	11.58	12.00	(色調欄)10YR6/6明黄褐	11.58	12.00	(色調欄)7.5YR5/4にぶい橙	11.58	12.00	(色調欄)にぶい橙	
47	-	-	-	12.00	12.33	スライム 径6cm以下の花崗岩類の礫からなる。基質部は流出している。	12.00	12.33	12.00～12.33m:スライム 径6cm以下の花崗岩類の礫からなる。基質部は流出している。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
48	12.33	12.75	12.33	12.75	12.75	12.33	12.75	12.33~12.79m:砂礫 礫率70~80%でクサリ礫を多く含む。やや硬質。礫種は花崗斑岩と一部ア ブライトで、礫径は2~100mm、最大径200mmの礫が認められる。垂角礫が 主体。 12.68~12.79m付近にマンガン濃集部が認められる。	-
49	12.75	12.79	12.75	12.79	12.75	12.79	12.75	12.79~13.00m:スライム 礫混じり粗粒砂からなり、礫率5~10%でクサリ礫を含む。礫種は花崗斑岩 で礫径は2~10mm。垂角礫が主体。ルーズ。	-
50	12.75	13.00	12.75	13.00	13.00	13.18	13.00	13.00~13.18m:スライム 径4cm以下の花崗岩類の角礫からなる。	-
51	-	-	13.00	13.18	13.00	13.18	13.00	13.18~13.45m:スライム 砂・礫混じりシルト。軟質 13.32~13.45m間にはにぶい橙色の径2cm以下の角礫 を20%程度含む灰黄褐色シルトからなる。	-
52	12.79	13.53	12.79	13.53	12.79	13.53	12.79	13.53~160.00m:花崗斑岩	-
53	13.00	13.18	13.00	13.18	13.00	13.18	13.00	14.89~15.09m:スライム 14.89~15.00m 砂混じりシルトからなる 15.00~15.09m 砂混じり礫からなる	-
54	-	-	13.18	13.53	13.18	13.53	13.18	14.89~15.09m:スライム 14.89~15.00m 砂混じりシルトからなる 15.00~15.09m 砂混じり礫からなる	-
55	13.53	13.53	-	-	-	-	-	-	*下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
56	-	-	13.53	160.00	13.53	160.00	13.53	160.00	-
57	13.53	29.00	13.53	30.10	13.53	30.10	13.53	30.10	15.62~19.80m:所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。
58	13.53	14.89	13.53	14.89	13.53	14.89	13.53	14.89	15.62~19.80m:所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。
59	14.91	14.91	13.91	13.91	13.91	13.91	13.91	13.91	15.62~19.80m:所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。
60	14.66	14.68	-	-	-	-	14.55	14.68	14.55~14.88m:割れ目沿いにマンガン濃集部が認められる。一部(14.55~ 14.63m)で土砂化が生じている。
61	14.89	15.00	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89~15.09m:スライム 14.89~15.00m 砂混じりシルトからなる 15.00~15.09m 砂混じり礫からなる
62	15.00	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89~15.09m:スライム 14.89~15.00m 砂混じりシルトからなる 15.00~15.09m 砂混じり礫からなる
63	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89	15.09	14.89~15.09m:スライム 14.89~15.00m 砂混じりシルトからなる 15.00~15.09m 砂混じり礫からなる
64	15.09	28.02	15.09	28.02	15.09	28.02	15.09	28.02	15.62~19.80m:所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。
65	15.62	15.66	-	-	-	-	15.62	19.80	15.62~19.80m:所々、割れ目に沿ったマンガン濃集部が見られる。
66	15.80	16.00	-	-	-	-	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめ書きしたため記載しない
67	16.50	16.51	16.50	16.51	16.50	16.51	16.50	16.51	16.50~16.51m:25°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。
68	16.76	16.86	-	-	-	-	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめ書きしたため記載しない
69	16.92	16.93	16.92	16.93	16.92	16.93	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめ書きしたため記載しない
70	17.10	17.10	-	-	-	-	-	-	*上記でマンガン濃集部の記載をまとめ書きしたため記載しない

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
71	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目やや少なくなる	17.16	-	17.16m以深は上位に比べ割れ目がやや少なくなる。	-
72	17.57	17.64	割れ目に沿って緑泥石が発達	17.57	17.64	35~40°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	17.57	17.64	17.57~17.64m: 35~40°の割れ目に沿って緑泥石が分布する。	-
73	17.70	17.80	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-	・上記でマンガン濃集部の記載をまとめ書きしたため記載しない
74	17.90	17.94	割れ目に沿ったマンガン濃集部あり	-	-	-	-	-	-	・上記でマンガン濃集部の記載をまとめ書きしたため記載しない
75	-	-	-	18.20	18.35	20°の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる	18.20	18.35	18.20~18.35m: 20°の割れ目に沿って黄褐色酸化が見られる。	-
76	-	-	-	18.68	10.74	60°の割れ目2条分布し、面にマンガン濃集が見られる	-	-	-	・上記でマンガン濃集部の記載をまとめ書きしたため記載しない
77	-	-	-	18.59	18.59	10°の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む	18.59	18.59	18.59m: 10°の割れ目に幅1cm程度の褐色の砂状部を挟む。	-
78	19.59	19.80	10m/m程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。 19.70m以浅は風化が進み軟質化する	19.59	19.80	10mm程度間隔で割れ目あり。マンガンと石英を伴う。	19.59	19.80	19.59~19.80m: 10mm程度の間隔で割れ目が分布し、マンガンと石英を伴う。 19.70m以浅は風化が進み軟質化する。	-
79	-	19.70	-	-	-	-	-	19.70	-	-
80	-	-	-	20.25	20.25	30°の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む	20.25	20.25	20.25m: 30°の割れ目に幅1~5mmの黄灰色砂状部を挟む。	-
81	20.90	20.90	0°割れ目ぞい約10m/m砂状化	20.90	20.90	5°の割れ目沿いに幅約10mm砂状化	20.90	20.90	20.90m: 5°の割れ目沿いに幅約10mm砂状化を呈する。	-
82	21.60	21.79	(コアの形状欄) Vランク	21.60	21.79	(コアの形状欄) Vランク	21.60	21.79	(コアの形状欄) Vランク	-
83	-	-	-	21.67	21.67	0°の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟在する。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。	21.67	21.67	21.67m: 0°の割れ目に幅1mmの暗灰色粘土を挟在する。上端側の幅10mmは淡黄褐色を呈する。	-
84	21.90	21.90	φ10m/m石英が80°割れ目(sj)で切られる(石スレ10m/m)。	21.90	21.90	φ10mm石英が80°割れ目で横断される。80°割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。(sj)で切られる(石スレ10mm) - 高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。	21.90	21.90	21.90m: 径10mmの石英斑晶が60°の割れ目で横断される。80°の割れ目は1条ではなく、分岐しており、分岐したそれぞれの割れ目は不連続である。高角度割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。系統的な割れ目も存在しない。	-
85	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。 割れ目ぞいに風化で砂状化する部分が多い。	21.79	26.82	硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。 割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。	21.79	26.82	21.79~26.82m: 硬さ「C」が主体であるが、硬さ「D」も含み両者が交互に出現する。割れ目沿いに風化で砂状化する部分が多い。	-
86	21.79	23.41	(風化欄) Aランク	21.79	23.41	(風化欄) Aランク	21.79	23.41	(風化欄) Aランク	-
87	22.10	22.50	(コアの硬さ欄) Cランク	22.10	22.50	(コアの硬さ欄) Cランク	22.10	22.50	(コアの硬さ欄) Cランク	-
88	22.18	22.49	硬さ「B」で硬質	22.10	22.50	硬さ「B」で硬質	22.10	22.50	22.10~22.50m: 硬さ「B」で硬質。	-
89	22.15	22.50	(コアの形状欄) IVランク	22.15	22.50	(コアの形状欄) IVランク	22.15	22.50	(コアの形状欄) IVランク	-
90	22.50	23.00	(コアの形状欄) IVランク	22.50	23.00	(コアの形状欄) Vランク	22.50	23.00	(コアの形状欄) Vランク	-
91	22.62	23.41	(コアの硬さ欄) Cランク	22.62	23.41	(コアの硬さ欄) Cランク	22.62	23.41	(コアの硬さ欄) Cランク	-
92	-	-	-	23.22	23.22	10°の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟在する。	23.22	23.22	23.22m: 10°の割れ目に幅5mmで黄灰色のやや硬質な砂を挟在する。	-
93	23.52	23.82	23.52m・30°と23.82m・20°の各割れ目に厚さ1m/m半固結状の灰褐色粘土脈はさまむ	23.52	23.82	23.52m・30°と23.82m・20°の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈挟む	23.52	23.82	23.52m・30°と23.82m・20°の各割れ目に幅1mmのやや硬質な灰褐色粘土脈を挟む。	-
94	-	-	-	23.89	23.89	25°の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟在する。	23.89	23.89	23.89m: 25°の割れ目に幅5mmの黒灰色シルト質砂を挟在する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
95	25.31	25.31	20° 割れ目ぞいにφ0.5m/m~1m/mと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。	25.41	25.41	20° 割れ目ぞいにφ0.5~1mmと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。	25.41	25.41	25.41m: 20° 割れ目ぞいに径0.5~1mmと微細な雲母(セリサイト?)が晶出している。	-
96	25.72	25.98	(コアの形状欄)Vランク	25.72	25.98	(コアの形状欄)Vランク	25.72	25.98	(コアの形状欄)Vランク	-
97	25.84	25.84	74° の割れ目(s)は交差する5~10° 割れ目を切っている(右ズレ、変位量1~3m/m)。	25.84	25.84	74° の割れ目(s)は交差する5~10° 割れ目を止めている場合と横断する場合がある。切っている(右ズレ、変位量1~3m/m)。 割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれば認められない。	25.84	25.84	25.84m: 74° の割れ目は交差する5~10° の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められる。高角度割れ目と系統的な割れ目も存在しない。25.80mの高角度割れ目と交差する低角度割れ目には、ずれば認められない。	-
98	26.82	-	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。	26.82	-	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。	26.82	-	26.82m以降は硬さ「D」が主体となる。	-
99	-	-	-	27.04	27.90	割れ目面にマンガンが付着する。	27.04	27.90	27.04~27.90m: 割れ目面にマンガンが付着する。	-
100	27.15	27.15	65° 割れ目に幅2~3m/m軟質淡黄~灰白色粘土脈は含む。	27.15	27.15	65° 割れ目に幅2~3mmの軟質淡黄~灰白色粘土脈を挟む。	-	-	-	-
101	27.91	27.91	20° 幅1m/m石英脈が交差する85° せん断割れ目(s)で右ズレ1m/mで引きつられるように変形している(切られてはいない)	27.91	27.91	20° 幅1mm石英脈が交差する85° せん断割れ目(s)で横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目は85° 割れ目を横断する。右ズレ1mmで引きつられるように変形している(切られてはいない)割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.91	27.91	27.91m: 20° で幅1mmの石英脈が交差する85° の割れ目を横断する。また、27.88mの低角度の潜在割れ目も85° の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
102	28.02	-	28.02m以降、10m/m間隔の風化割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。	28.02	-	28.02m以降、10mm間隔の風化割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目ぞいに風化砂状化することが多い。	28.02	-	28.02m以降、10mm間隔の風化した割れ目が発達し、片状~塊状化している。割れ目ぞいに風化して砂状化することが多い。	-
103	-	-	-	28.24	28.94	割れ目に沿った風化・変質が見られる	28.24	28.94	28.24~28.94m: 割れ目に沿った風化・変質が見られる。	-
104	-	-	-	28.55	28.55	25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟む。	28.55	28.55	28.55m: 25° の割れ目に幅10mmの硬質な黄灰色シルト質砂を挟む。	-
105	-	-	-	29.19	29.19	50° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟む。	29.19	29.19	29.19m: 50° の割れ目に幅3mmの灰白色粘土を挟む。	-
106	29.88	30.82	D 概ねφ10m/m以下に砕けている風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。φ5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、締った「砂礫状」を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土部も散在している。岩組織や上部の割れ目は残留している。	30.10	30.82	D 概ねφ10mm以下に砕けている風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。φ5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な「砂礫状」を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。	30.10	30.02	30.10~30.82m: D 概ね径10mm以下に砕けている。風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大している。径5~30mmの硬さ「D」「C」岩片が多く残留し、硬質な砂礫状を呈する。基質は砂状部が主体であるが、灰白色粘土部も散在している。原岩組織や上部の割れ目は残留している。	-
107	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Fランク (岩級区分欄)D	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	29.88	30.10	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	-
108	29.88	30.82	(風化欄)εランク	29.88	30.82	(風化)δランク	29.88	30.82	(風化)δランク	-
109	30.82	31.15	CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。	30.82	31.15	CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。	30.82	31.15	30.82~31.15m: CL 割れ目ぞいに砂状化することが多い。	-
110	30.82	31.15	(岩級区分欄)CL	30.82	31.15	(岩級区分欄)D	30.82	31.15	(岩級区分欄)Dに含める	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
111	31.15	31.66	破砕帯(主せん断面31.29m)	31.15	31.66	破砕部(最新活動面31.29m)			●31.15~31.66m:破砕部 31.15~31.24m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/2)。厚さ80~90m/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
112	31.15	31.24	Hj 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/2)。厚さ80~90m/m	31.15	31.24	Hj 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/2)。厚さ80~90m/m やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。			●31.15~31.66m:破砕部 31.15~31.24m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端20°で直線的、下端15~28°で湾曲して連続。一部粘土化した径5~10mmの岩片と岩片間の粘土~幅1~2mm粘土細脈からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/2)。厚さ80~90m/m 31.24~31.28m:粘土質硬状部(Hb) 上端15~28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの大半が粘土化した岩片を計20~30%含む。やや軟質、明赤灰色を呈する。幅20~30mm。 31.28~31.29m:細粒じり粘土状部(Hc-2) 傾斜38°で上端は波打って、下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒を10~20%含む。やや軟質。灰黄褐色を呈する。幅5~10mm。 31.29~31.66m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。径5~20mmの硬さ「D」主体(他に粘土化、硬さ「D」を含む)の岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙色(7.5YR 7/3)。厚さ350m/m(コア長)。	
113	31.24	31.28	Hb 上端15~28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。径2~3mm石英粒、径5~10mmの大半が粘土化した岩片を計20~30%含む。やや軟質な固結状の「粘土質塊」状を呈する。色調は明赤灰色(2.54R 7/2)。厚さ20~30m/m	31.24	31.28	Hb 上端15~28°で湾曲して、下端38°で波打って連続。径2~3mm石英粒、径5~10mmの大半が粘土化した岩片を計20~30%含む。やや軟質な固結状の「粘土質塊」状を呈する。色調は明赤灰色(2.54R 7/2)。厚さ20~30m/m 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	31.15	31.66		
114	31.28	31.29	Hc-2 38°で上端波打って、下端は直線的に連続。径2~3mm石英粒を10~20%含む軟質粘土(ラワン)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)。厚さ5~10m/m	31.28	31.29	Hc-2 38°で上端波打って、下端は直線的に連続。径2~3mm石英粒を10~20%含むやや軟質な硬じり粘土(オウソ)。色調は灰黄褐色(10YR 4/2)。厚さ5~10mm 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
115	31.29	31.66	Hj 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。径5~20mm硬さ「D」主体(他に粘土化、硬さ「D」を含む)と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR 7/3)。厚さ350m/m(コア長)。	31.29	31.66	Hj 上端38°で直線的に、下端43°で波打って連続。径5~20mm硬さ「D」主体(他に粘土化、硬さ「D」を含む)の岩片と岩片間の粘土からなり「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい橙色(7.5YR 7/3)。厚さ350m/m(コア長)。 軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
116	31.15	31.66	(変質欄)4ランク	31.15	31.66	(変質欄)3ランク	31.15	31.66	(変質欄)3ランク	
117	31.66	31.78	(岩級区分欄)C	31.66	31.78	(岩級区分欄)D	31.66	31.78	(岩級区分欄)Dに含める	
118	31.78	34.37	D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。処々に厚1~3mm白色軟質粘土脈をはさむ。	31.78	34.37	D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。所々に幅1~3mm白色軟質粘土脈を挟む。	31.78	34.37	31.78~34.37m:D 風化で割れ目ぞいに砂状化が拡大する。原岩組織は残留するが、割れ目は消滅するか、しかかっているものが多い。所々に幅1~3mmの白色軟質粘土脈を挟む。	
119	33.00	33.25	粘土化進み、岩組織不明瞭となる。	-	-	-	33.00	33.25	33.00~33.25m:粘土化が進み、原岩組織は不明瞭となる。	
120	-	-	-	31.91	31.91	27°の割れ目に軟質な幅3mmの褐色粘土を挟む。	31.91	31.96	31.91~31.96m:25~30°の割れ目に軟質な幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	・褐色粘土を挟在する割れ目についてまとめ書きした
121	-	-	-	31.92	31.92	25°の割れ目に軟質な幅2mmの褐色粘土を挟む。	-	-	-	・上記で褐色粘土を挟在する割れ目の記載をまとめ書きしたため記載しない
122	-	-	-	31.90	31.90	30°の割れ目に軟質な幅1mmの褐色粘土を挟む。	-	-	-	・上記で褐色粘土を挟在する割れ目の記載をまとめ書きしたため記載しない
123	33.35	33.40	硬さ「D」の岩片主体。	-	-	-	33.35	33.40	33.35~33.40m:硬さ「D」の岩片主体。	
124	-	-	-	32.45	32.59	8~48°の割れ目ぞいに灰白色粘土を挟在する。粘土は一部網目状に分布する。	32.45	32.59	32.45~32.59m:8~48°の割れ目ぞいに灰白色粘土を挟在する。粘土は一部網目状に分布する。	
125	33.60	33.60	5°幅1mm軟質な赤灰色粘土脈	33.60	33.60	5°幅1mmの軟質赤灰色粘土脈を挟む。	33.60	33.60	33.60m:5°で幅1mmの軟質赤灰色粘土脈を挟む。	
126	33.77	33.77	7°幅5~8m/mマンガン藍染部が脈状に分布	33.77	33.77	7°幅6~8mmのマンガン藍染部が脈状に分布	33.77	33.77	33.77m:7°で幅6~8mmのマンガン藍染部が脈状に分布する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		選定した記事内容		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
127	33.79	33.87	硬さ「D」の岩片主体	-	-	33.79	33.87	33.79~33.87m:硬さ「D」の岩片主体。		
128	33.96	-	以深は岩組織不明瞭な締った砂状部主体 割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。	33.96	-	33.96	-	33.96m以深は原岩組織が不明瞭な硬質な砂状部主体。割れ目の一部は残留するが、消滅しているものが多い。		
129	-	-	-	33.97	33.97	33.97	33.97	25°の割れ目に幅2~4mmの褐色粘土を挟在する。		
130	34.37	34.48	破砕帯(主せん断面34.37m)	34.37	34.48	破砕部(最新活動面34.37m)		●34.37~34.48m:破砕部 34.37m:粘土状部(Hc-1) 傾斜13°で上端は直線的、下端は波打って連続。径2mmの石英粒をわずかに(5%以下)含む。軟質。軟質な粘土は75°のせん断面と交差し、2mmみかけ右ズレに位置して切られている。マンガン鉱染を伴う。黒褐色を呈する。幅2~6mm。 34.37~34.48m:粘土質硬状部(Hb) 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計30%程度含む。浅黄~明赤灰色を呈する。幅90mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
131	34.37	34.37	Hc-1 13°で上端直線的、下端波打って連続。φ2mm石英粒わずかに(5%以下)含む軟質な粘土(カウジ)。カウジは75°のsと交差し、2m/m右ズレ変位で切られている。マンガン鉱染を伴う。色調は黒褐色(10YR 3/2)、厚さ2~6m/m	34.37	34.37	Hc-1 13°で上端直線的、下端波打って連続。φ2mm石英粒わずかに(5%以下)含む軟質な粘土(カウジ)。カウジは75°のせん断面と交差し、2mmみかけ右ズレ変位で切られている。マンガン鉱染を伴う。色調は黒褐色(10YR 3/2)、厚さ2~6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	34.37	34.48		
132	34.37	34.48	Hb 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m粘土化~硬さ「D」岩片を計30%程度含む固結状の「硬質粘土状」を呈する。色調は浅黄(5Y 7/3)~明赤灰(2.5YR 7/1)、厚さ90m/m	34.37	34.48	Hb 上端13°で波打って、下端20°で直線的に連続。φ2~3mm石英粒、φ5~10mm粘土化~硬さ「D」岩片を計30%程度含む固結状の「粘土質硬状」を呈する。色調は浅黄(5Y 7/3)~明赤灰色(2.5YR 7/1)、厚さ90mm。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。				
133	34.80	35.00	(コアの硬さ欄)Dランク	34.80	35.00	(コアの硬さ欄)Dランク	34.80	35.00	(コアの硬さ欄)Dランク	
134	34.48	35.13	CL 34.59m・29°と34.67m・50°は68°幅1m/m石英脈を切るせん断割れ目(s)	34.48	35.13	CL 34.59m・29°と34.67m・50°の割れ目は68°幅1mmマンガン脈、一部石英脈を止めている。切るせん断割れ目(s)は、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	34.48	35.13	34.48~35.13m:CL 34.59m・29°と34.67m・50°の割れ目は68°で幅1mmのマンガン脈、一部石英脈を止めている。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)												
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		選定した記事内容											
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>																
135	35.36	35.46	破砕帯(主せん断面35.40m)		35.36	35.46	破砕部(最新活動面:35.40m)												
136	35.36	35.39	Hj 上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°で一箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。φ2~5m/m石英粒、φ3~5m/m粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不詳。「粘土混じり岩片状」。「粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ25m/m	Hj 上端やや不明瞭で47°で波打って、下端47°で1箇所小さく湾曲するが、これ以外は直線的に連続。φ2~5m/m石英粒、φ3~5m/m粘土化岩片からなるが、岩片の粘土化進むため構造は不詳。「粘土混じり岩片状」。「粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ25mm。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	35.36	35.39													
137	35.39	35.40	Hc-1 47°で上下端とも波打って連続。上端の一部は不明瞭。φ1~3m/m石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR 8/1)~灰褐色(7.5YR 6/2)で不明瞭な細かい鱗状模様を呈する。厚さ12~15m/m	Hc-1 47°で上下端とも直線的に連続する。上端の一部は不明瞭。φ1~3mm石英粒10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白(1.5YR 8/1)~灰褐色(7.5YR 6/2)で不明瞭な細かい鱗模様を呈する。厚さ12~15mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	35.39	35.40	35.36	35.46											
138	35.40	35.46	Hj 上端47°で波打って、下端20~35°で湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。全体に「粘土混じりない粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)~褐色(10YR 4/1)、厚さ40~45m/m	Hj 上端47°で直線的に、下端20~35°で湾曲して連続。φ2~3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片からなる。上端側の一部は晶洞中に石英が多く晶出し、マンガン鉱染も伴う。全体に「粘土混じりない粘土質岩片状」呈する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)~褐色(10YR 4/1)、厚さ40~45mm。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	35.40	35.46													
139	35.46	35.68	D 上下を破砕帯に囲まれ粘土化が進んでいる。	D 上下を破砕帯に囲まれ粘土化が進んでいる。	35.46	35.68	35.46~35.68m:D 上下を破砕帯に囲まれ粘土化が進んでいる。												
140	35.68	35.73	破砕帯(主せん断面35.73m)		35.68	35.73	破砕部(最新活動面35.73m)												
141	35.68	35.72	Hj 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。φ3~5m/mの粘土化岩片主体「粘土混じり硬状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ35~50m/m	Hj 上端27°の褐色軟質粘土で波打って、下端20°で不明瞭ながら波打って連続。φ3~5mmの粘土化岩片主体「粘土混じり硬状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)、厚さ35~50mm。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	35.68	35.72													
142	35.72	35.73	Hb 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。φ1~2m/m石英粒を20%程度含む半固結状の「粘土質硬状」を呈する。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ10m/m	Hb 上端20°で波打って、下端12°で直線的に連続。φ1~2mm石英粒を20%程度含むやや軟質半固結状の「粘土質硬状」を呈する。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ10mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	35.72	35.73	35.68	35.73											
143	35.73	35.73	Hc-1 12°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 6/2)、厚さ1~2m/m	Hc-1 12°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない(5%以下)軟質粘土(ガウジ)。色調は灰黄褐色(10YR 6/2)、厚さ1~2mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	35.73	35.73													
144	35.68	35.92	D 上下を破砕帯に囲まれ、粘土化が進んでいる。	D 上下を破砕帯に囲まれ、粘土化が進んでいる。	35.68	35.92	35.68~35.92m:D 上下を破砕帯に囲まれ、粘土化が進んでいる。												